



## 岐阜米穀(株) メールマガジン

### 今回のテーマは「安くて安定していた輸入の鶏肉騒動について」

このところ輸入鶏肉の供給が不安定化している。

主要原産国のタイで新型コロナウイルスが流行、工場での生産が滞るも、国産を扱う業者に大きな影響はでていない。

日本に輸入される鶏肉調製品のうち、タイ産は7割を占める。しかし、昨年の10月の輸入量は同月比24%減の1万9859トンで、前月に続いて前年を大きく下回った。

タイとしても鶏肉輸出量は91万3000トンで、目標に約4万トン届かない見通しでした。

昨年タイの鶏肉加工業界では、労働者が2万人以上不足しているのは新型コロナの影響で、近隣国の多くの外国人労働者が帰国したためだ。また原油の高騰や輸送費や飼料価格が、生産量を増やす妨げになっていた。タイ産の代替になるのがブラジル産だが、新型コロナの影響による労働力不足や、輸送費と飼料価格が高騰している状況に同国も変わりはない。

こうした状況から日本国内で鶏肉の販売休止や、値上げの発表が相次いだのです。

コンビニチェーンのファミリーマートは11月から約1カ月、人気惣菜商品「ファミチキ」の販売数を調整したりしました。

冷凍唐揚げなどを製造する味の素冷凍食品は10月、タイの自社工場で生産する商品の在庫がなくなり、通常供給に戻るまで約2カ月かかった。原材料費の高騰が重なりタイからの商品を値上げしました。

ニチレイフーズでも、販売を休止している唐揚げ商品があったり、日本水産は新商品の鶏つくねなど一部の販売を延期しました。

一方、国産を使うローソンの「からあげクン」や日本ケンタッキー・フライド・チキンは、影響はないという。国産を使う理由をケンタッキーは「安全・安心にこだわり、新鮮な手作り感のある商品を提供している」と説明したのです。「最需要期の12月も、適正価格で供給できている」と。

また輸入鶏肉を原料に使う外食や冷凍食品の業者の担当者は「奪い合いが始まっている」、「何とかやりくりしている」などと話す。価格上昇は止められないので、調達に苦労している様子が見えがえる。

食品加工・小売業者は、価格だけではなく、食料を国民に安定的に供給する観点から、農畜産物の調達先を分散させることはできるのかは難しいようです。この教訓は国内産の農産部の振興が大切なことを物語っていますが、飼料のトウモロコシの価格上昇が危惧されています。

岐阜米穀は8年前から北海道産子実トウモロコシを先駆者の柳原農場と契約栽培して、雑穀ブレンドに使用しています。子実トウモロコシ市場は昨年 100 万 ha と拡大してきましたが、未だ国内産とうもろこしの食用市場は生食に限られており、加工用は育っていないのが現状。岐阜米穀は国内産とうもろこしをパンケーキなどへの供給をグリッツ・粉・アルファ粉として準備して待っているのです。

～～新商品のご紹介～～ オートミール3品シリーズで登場

◇オートミールに使い分けをご提案。

第3種で「ミドルタイプ」を発売しました。ミドルタイプ＝「M」はどんなお客様の要望にも応えるオートミールです。揚げ物用のパン粉の変わりにも使えます。

粒の形状を「S」「M」「L」とパッケージを解りやすくして選びやすくなりました。

半額キャンペーンを実施します。サンプル希望はメールからお願いします。

4595641702001 クイック オートミールS500g 本体価格@370円

4595641702049 ミドル オートミールM500g 本体価格@440円

4595641702018 ロールド オートミールL500g 本体価格@370円

■オートミール・もち麦などを、PB・ODMを認証工場での受託をしています。